

ブランド小麦グレードアップ

小麦品種「春のかがやき」の製粉適性はASW並に高く、製麺性はASWや農林61号に比べ黄色味は強いが、食感はASWに似て良好です。

「春のかがやき」は「農林61号」と同様に、麦7葉期の土壌硝酸態窒素含有量によって、子実蛋白質含有量と容積重の予測が可能です。土壌硝酸態窒素含有量が9.8kg/10a以下の場合には、麦7～9葉期に窒素成分2～4kg/10aの追肥を実施すれば、高品質・高収量生産ができます。

上位ランク達成のため収穫時期を再検討したところ、早刈りや高水分麦の収穫は外観品質等に及ぼす影響が大きいので適しません。また、刈り遅れは、収穫適期後の降雨により容積重が低下するため、天候を考慮した作業計画が必要です。

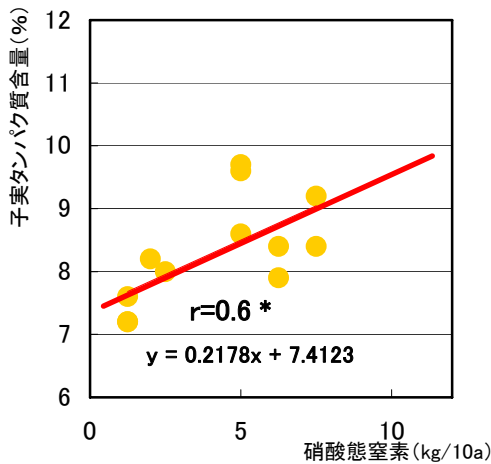


図1 7L期土壌硝酸態窒素と子実タンパク質含有量

- 注)①硝酸態窒素は「みどりくんN」の測定値
 ②タンパク質含有量は近赤外分析法(インフラレック1255、水分13.5%換算)
 ③*は5%水準で有意性を示す

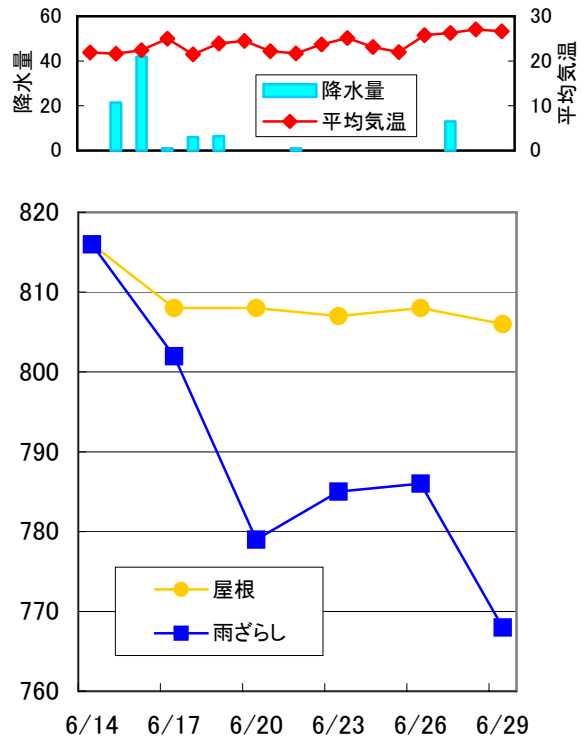


図2 成熟期以降の降雨と容積重

- 注)①容積重はブラウエル穀粒計で測定
 ②上段の平均気温および降水量は熊谷地方気象台調べ

小麦7葉期の土壌硝酸態窒素が9.8kg/10a以下では追肥が必要です。
 なお、灰色低地土では追肥は必須と考えられました。

雨にあたると外観品質とともに容積重も低下します。適期収穫を励行しましょう。

